



山形大学 (山形県)



地域の人や風俗習慣に触れ、山形文化の魅力に「どっぷり」はまりましょう。

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

山形大学は1949年に創設されたが、その歴史は、19世紀、1878年の山形師範学校創立に遡る。今日の山形大学は、6学部、7研究科、1教育機構から成る。教員約850人、総学生数約9,000人を有し、山形県内に設置されている主たる総合大学として、研究・教育の中心となる役割を果たしている。その教育理念は、総合大学としての特徴を活かし、自然科学、人文・社会科学が連携した専門教育と幅広い教養教育を行うとともに、地域社会に根ざし国内はもとより国際的にも活躍できる人材を育成することである。また、優れた研究成果を生み出すことにより、「自然と人間との共生」という目標を実現し、社会に貢献することを目指している。

② 国際交流の実績 (2020年10月1日現在)

海外機関との交流協定数：39カ国・地域191機関

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生(日研生)の受入れ実績

2020年：留学生数220人、日研生1人
2019年：留学生数274人、日研生1人
2018年：留学生数251人、日研生2人

④ 地域の特徴

山形県は、四季に恵まれ、自然を身近に感じることができる。県内全域にわたって温泉を楽しむことができ、温かい人々とふれあうことができる。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

山形大学には、日本語・日本文化に関する幅広い領域の科目があり、充実したコースが組まれている。日本語科目は、研究に必要な基礎となる言語能力を伸ばすよう授業が構成されている。多文化交流科目と各専門科目では、言語学、文学、歴史、異文化交流、社会学、地理、経済、政治、音楽、美術、教育など様々な角度で日本文化を学ぶことができる。また、1年計画で自らの選択したテーマに沿って研究プロジェクトを行うことが本プログラムで特に力を入れている点である。口頭発表をし、修了論文を書くことのできる日本語力をつけることを達成目標としている。

③ 受入定員

4名(大使館推薦2名、大学推薦2名)

④ 受講希望者の資格、条件等

1) 主専攻あるいは副専攻が日本語・日本文化に関する分野であること。
2) 日本語能力試験 N2合格以上またはそれに準ずる日本語力を有することが望ましい。日本語を使って自分の考えが表現でき、日本人と話し合うことのできる日本語力を持つこと。

⑤ 達成目標

生きた日本語が使われている環境で、山形の人々との交流を通して、地域に根ざした日本文化への理解を深める。また、専門科目を受講して日本語による学術的な内容の理解力を養う。同時に、自ら行う研究プロジェクトで、修了論文を作成し、報告会で発表することにより、その運用力を身につける。

⑥ 研修期間

2021年10月1日～2022年9月30日

* 宿舎には2021年9月下旬に入居できる。

⑦ 奨学金支給期間

2021年10月 ～ 2022年9月



お花見(4月)



山寺(奥の細道)

⑨ 研修・年間スケジュール

日本の家庭訪問、見学旅行、地元の祭り(例:花笠祭り)などを通じて、地域の人々と知り合い、日本文化を体験することができる。そのほか、茶道、生け花、こけし絵付け、座禅、着付けなどへの参加を予定している。

9月下旬 渡日

9月 オリエンテーション

10月 留学生研修旅行

11月 留学生懇談会

12月 多文化交流コンサート

／スピーチ発表会

4月 お花見

8月 留学生日本語発表会

花笠祭り

9月 帰国



茶道



花笠祭り(8月)

⑩ コースの修了要件

コース概要⑩の要件を満たし、本プログラムを修了した者には、修了証が発行される。また、成績証明書が発行される。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

授業は前期・後期各15週開講される。授業にはⅠ、Ⅱ、Ⅲの三種がある。Ⅰは留学生向け日本語科目で、Ⅱ、Ⅲは日本人学生とともに学ぶ科目である。Ⅳは日研生のための科目である。

このプログラムを修了するには12科目以上の履修が必要である。そのうち6科目以上は、Ⅰ、Ⅱの分野から選択するものとする。

2) 研修・コース開設科目

Ⅰ) 必須科目(前後期各15週、30時間)

Ⅳの分野の研究プロジェクトを必修とする。

Ⅱ) 選択科目

Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの各科目は、すべて選択科目である。※〔前期〕:4~8月開講科目〔後期〕:10~2月開講科目

3) 見学、地域交流等の参加型科目

Ⅱの科目では、地域の人々と交流する。

4) 日本人学生との共修等がある科目

Ⅱ(日本文化入門以外)およびⅢの各科目では日本人学生とともに学ぶ。

Ⅰ 日本語科目

a. 基盤教育日本語科目

日本語中級1「総合」 中級前半〔前期・後期〕

日本語中級1「読む」 中級前半〔前期・後期〕

日本語中級1「書く」 中級前半〔前期・後期〕

日本語中級2「総合」 中級後半〔前期・後期〕

日本語中級2「読む」 中級後半〔前期・後期〕

日本語中級2「書く」 中級後半〔前期・後期〕

漢字4 中級漢字〔前期・後期〕

日本語上級1「読む」 上級前半〔前期・後期〕

日本語上級1「話す」 上級前半〔前期・後期〕

日本語上級1「書く」 上級前半〔前期・後期〕

日本語上級1「聞く」 上級前半〔前期・後期〕

日本語上級2「読む」 上級後半〔前期・後期〕

日本語上級2「話す」 上級後半〔前期・後期〕

日本語上級2「書く」 上級後半〔前期・後期〕

日研生は主に日本語上級から選択して履修します。

「読む」では、一般書の抜粋や新聞記事から情報を読み取り、他のリソースとの比較対照を行います。

「話す」では、大学で必要な会話の練習、発表やディスカッションに必要な日本語の練習を行います。

「書く」では、レポートや論文など、大学の学習・研究活動に必要な文章を書く練習を行います。

「聞く」では、ニュースや映画を見て、聴解力・語彙力を伸ばすとともに日本社会を理解することを目指します。

b. 人文社会科学部専門日本語科目

日本語 a N1対策・スピーチ〔前期〕

日本語 b 読解・聴解・作文〔後期〕

Ⅱ 日本文化・多文化交流・地域学科目

日本文化入門〔前期・後期〕

地域のリソースを活かし、茶道、こけし絵付け、平清水焼き、座禅、温泉などの日本文化を体験しながら学習する。

多文化交流〔後期〕

ドイツ、ドイツ語圏と日本・文化と楽しみー20世紀を中心にして

フィールドワークー共生の森もがみ〔前期〕

山形県北部の最上地方で地元の達人を講師に、森と関わる暮らしや独特の祭りの山車作り等を体験する。

異文化理解演習〔前期〕

通過儀礼を通して日本文化・社会及び台湾文化・社会を理解するようになる。そして、異なる文化的な背景を持つ者(日本人学生、留学生)同士で議論することによって異文化理解の知識を身に付ける。

Ⅲ 人文・社会科学科目

a. 人文社会科学部開講科目

日本語学特殊講義 b〔後期〕

日本語の歴史について、特に文献研究の立場から考察を進める。

日本語学概論〔前期〕

日本語の歴史について解説する。

日本語文法概論〔後期〕

現代日本語の記述的文法を解説する。

日本語文法特殊講義 b〔前期〕

現代日本語の複文の意味・文法的性質について解説する。

日本語学演習 a〔前期〕

日本語の歴史分野に関する文献を読み進める。

日本語教育学概論〔前期〕

日本語教師になるために必要な基礎的な知識を学ぶ。



多文化交流
コンサート
~南京たま
すだれ~
(12月)

日本語教育学基礎演習 b〔前期〕

教科書を分析し、学習項目の洗い出しと重み付け、到達目標の検討を行う。

日本語教育学特殊講義 b〔後期〕

典型的な日本語初級の授業の流れを理解し、教室活動をデザインする。模擬授業を行い互いに評価・分析する。

映像学概論〔前期〕

映画の分析論。日本映画の分析を含む。

日本古代中世文学特殊講義 a〔後期〕

和歌・連歌の形態を学び、歌合・連歌会を体験することで短詩の役割を理解する。

日本近現代文学特殊講義 b〔後期〕

明治以降平成までの小説、詩、評論などを読む。

地誌学〔後期〕

地域で観察されるさまざまな現象と歴史的、自然的風土との関係を理解する。

比較文化・文化交流史概論〔後期〕

近現代の日米関係を軸として、比較と交流史の視点から、日本文化の変容について論じる。

日本経済史〔前期・後期〕

鎌倉時代から明治時代の経済史を講じ、日本社会の特質をあきらかにする。

b. 地域教育文化学部開講科目

国語学概論 I〔前期〕

音声・音韻、書記、語彙、方言を中心に日本語の概要を解説する。

国語学概論 II〔後期〕

文法、敬語、日本語の歴史を中心に日本語の概要を解説する。

c. 基盤共通教育開講科目

特定の分野に偏らず、幅広い学問分野を学ぶことができる。自分で関心がある科目を選択し、履修する。〔前期・後期〕

IV 研究プロジェクト

研究プロジェクトI〔後期〕

研究プロジェクトII〔前期〕

本プログラムの必修科目。指導教員の個別指導を受けて選んだテーマについて、日本語で研究レポートを書く。学期の最後には、各自のテーマについて最終発表を行う。

⑪ 指導体制

1) プログラム実施教員

学士課程基盤教育機構所属の教員が実施する。

内海由美子 教授 日本語教育

尤銘煌 教授 社会学

今泉智子 准教授 日本語教育

2) 指導教員

人文社会科学部、地域教育文化学部、または学士課程基盤教育機構教員が研究プロジェクトのための個別指導を行う。研修生は指導教員の部局に所属する。

■ 宿舎

短期留学生は80名まで山形大学山形国際交流会館などの宿舎に入居できる。宿舎は、大学へ自転車などで通学できる場所にある。(例：山形国際交流会館(香澄町)单身室)

1) 宿舎費(1ヶ月)+共益費(1ヶ月)+保証積立金
5,900円 + 4,000円 + 30,000円

2) 宿舎設備・備品(单身室の場合)

ベット、机と椅子、エアコン、ガスFF暖房機、冷蔵庫、食器戸棚、本棚、洋服ダンス、ミニ・キッチン、シャワー、トイレ



ボードゲームイベント



小白川キャンパス



山形国際交流会館(香澄町)

■ 修了生へのフォローアップ

これまでの修了生たちと、本学で指導に当たった教員たちとの間では継続して連絡がとられている。修了生は、ほとんどが日本か母国で大学院に進学し、さまざまな分野でキャリアを積み始めている。一人は、山形大学で修士号を取得後、国際交流の仕事に携わりたいと山形大学職員に応募し、採用された。その仕事を経て、現在は、中国でトヨタ自動車に勤めている。また、別の一人は、フィンランドで修士課程在学中に自ら翻訳会社を立ち上げている。2012年には翻訳に携わった本について、本学で講演会を行った。現在通訳としても活躍している。シンガポールの大学を卒業後、日本JTで働く経験を積んだ修了生は、2014年、本学の留学生懇談会で後輩たちに経験を語り、交流を深めた。



修了学生による懇談会

■ 問合せ先

<担当部署>

山形大学国際交流室

住所：〒990-8560

山形県山形市小白川町1-4-12

TEL： +81-23-628-4017 (直通)

FAX： +81-23-628-4849

Email： rggokusai@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

<ウェブサイト>

山形大学：

<https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/>